クラウドアップグレードのメリットを引き出す

ルイーズ・ニルソン
Lantmännen AgricultureのCIO

今こそ、Lantmännen AgricultureのCIOと共に、行動を起こす時である理由を探る

Lantmännenは、農業協同組合であり、北欧最大の農業、機械、バイオエネルギー、食品メーカーです。19,000人のスウェーデンの農家が所属し、10,000人の従業員を擁し、20か国以上で事業を展開し、年間売上高は450億スウェーデンクローナ（約55億ドル）に達しています。事業の中心には穀物があり、土地の資源を耕し、農業の繁栄を促しています。

インフォアではLantmännen Agriculture部門のCIO、Louise Nilsson氏と協力し、オンプレミスのERPシステムをマルチテナントクラウドにアップグレードすることを決定した理由についてお聞きしました。彼女の言葉を以下にご紹介します。

インフォアとM3の歴史とは？

インフォアとは長い歴史があります。Infor M3®（および以前はMovex）をビジネスプラットフォームとして20年以上使用してきました。ソリューションのアップグレードを繰り返し、数年前にフィンランドの2社を買収した際、Lantmännen AgricultureとM3ビジネスプラットフォームに統合しました。

農業業界においてクラウド推進が必要な理由は何ですか？

私たちは急速に変化するビジネスに従事しています。農家は伝統的なものと思われているかもしれませんが、そうではありません。今後、次世代の農家をサポートするためには、新たな要件を満たす必要がありますし、農場の規模も大きくなっていくでしょう。そのような要求に応えるためには、より速くかつ柔軟に動いていかなくてはなりません。それは、古いビジネスプラットフォームでは実現できません。近代化したマルチテナント型のクラウドで、継続的にアップデートしていくことが求められています。

現在のIT環境はどうなっていますか？

Lantmännen Agricultureは3つの会社で構成されています。スウェーデンの農業部門はM3 10.1で稼働しており、フィンランドの農業部門は最近M3 13.4をオンプレミスで導入しました。そして機械部門はM3 5.2からマルチテナントクラウドにアップグレードするプロジェクトの最中です。大幅にカスタマイズしたM3 5.2バージョンから、クラウドの標準化されたバージョンへ移行することは、機械部門にとって大きな一歩となります。

あなたの組織がMTクラウドを利用することにした理由は何ですか？ またなぜ今なのですか？

MTクラウドに行かない理由はないと思いますよ。これから起こるであろうすべての変化に迅速に適応することが求められています。つまり、迅速に対応でき、常に最新の状態であるビジネスプラットフォームが必要なのです。私たちは、5〜10年毎に多大なコストと多くの時間を要するアップグレードでビジネスを中断したくありません。クラウドに移行せずに、ビジネスをより迅速に改善する選択肢は本当にないと思います。

ビジネス、IT、変革の目標に関して、クラウドへの移行においてどのような課題が予想されますか？

ビジネスの観点からは、クラウドまたはオンプレミスのERPパッケージを使用しているかどうかは気にすべきではありません。どちらでもかまわないのです。しかし、ITの観点から見ると、それは大きな違いです。新しい技術を理解する必要があります。また、毎月のアップデートに備えなければなりません。つまり、常にテストを行い、テストスクリプトの方法を改善し、すべてを自動化する必要があります。これらのことはすべて初めての経験となります。

また、毎月のアップデートや今後のアップデートの改善に積極的に取り組む必要があります。なぜなら、変更に適応しないと、理解できない何らかの状態に追い込まれるからです。

クラウドへの移行は、組織におけるITの役割をどのように変えますか？

私たちはまだクラウドへの移行の真っただ中にいるのでプロジェクトが完了するまではITの役割がどのように変わるかはわかりません。これから起こることに備える必要がありますが、今できることは限られています。すべてを準備することはできませんが、その都度、学び、適応していくことが大切です。そして、たぶんつまずき、そこから学んでいくことになると思います。その後に、何が必要なのか、新しい現実にどう適応すべきかがわかるのです。

クラウドへの移行はどのくらいのスピードで計画していますか？ それは短いプロジェクト、または長いプロジェクトですか？ ビッグバン型の変更、または段階的な展開ですか？

3社間で段階的に展開される予定です。まずは機械部門へ展開し、その後、スウェーデンとフィンランドで農業部門へ展開する計画です。また、Lantmännen Cerealia社の同僚もクラウドへの移行を検討していますし、バイオエネルギー部門の友人たちも同様です。Lantmännen社の計画では、2025年までにマルチテナント型のクラウドを稼働させる予定です。少なくとも、それが今の構想です。まだまだ先のことと思われるかもしれませんが、これらのことには時間がかかります。当社は、複数のセクターを抱える大規模な組織であり、すべて独自の課題を抱えています。

Infor OSプラットフォームがLantmännenにもたらすメリットは何だと思いますか？

私たちにとって、クラウドへの移行はより迅速かつ簡単な統合の可能性を提供してくれると考えています。なぜなら、より標準化されたAPIライブラリ/フォーマットが提供されるからです。ただし、私たちはInfor以外にも多様なシステム環境を持っているため、他のサプライヤーやLantmännen内の他の企業との相互作用が必要です（内部での穀物の売買や最適化を含む）。すべてのLantmännenの企業がInfor OSを統合プラットフォームとして使用しているわけではありませんが、これを良い方向に進むと見ています。Infor OSの利点は統合機能がSaaSとして提供され、サービスとして購入できることです。

クラウドに移行する際にどのような懸念がありましたか？また、どのように克服する計画ですか？

私の懸念は、すべてのお客様と同様に、パフォーマンスにあります。本稼働が始まったらどうなるのか？インフォアは私たちのためにすぐに対応してくれるのか？ 故障が発生したとき、または当社が設計または決定したとおりに何かがうまく機能しない場合、どのくらい迅速に対応してくれるのか？といった懸念です。新しい技術なので、パフォーマンスに問題があったとしても、それはクラウドのせいではないかもしれません。私たちはまだオンプレミスのソリューションを使用しており、おそらく適格でない接続をしている所もあるでしょう。動かないPCがあるかもしれず、この一連の中で一番弱い箇所が問題になるかもしれません。クラウドの場合、若干複雑になりますが、メリットもたくさんあります。

アップグレードの妨げになるものは何ですか？

常にタイミングの問題です。定期的なアップグレードを会社に説得するのは難しいです。しばしば「ビジネス上の理由は何ですか？なぜ今それを行う必要があるのですか？他の改善が必要です。私たちはつい最近会社を買収したばかりです」と尋ねられます。一部の企業は5年ごとにアップグレードを行う計画を持っていると聞きますが、それは素晴らしい計画だと思います。Lantmännen Agricultureにとっては、タイミングと新しい技術の可用性、そしてこの新しい技術がもたらす可能性がより重要でした。

クラウドへの移行の主な利点は何だと思いますか？

一番の利点は、それがサービスとして購入されることです。インフラが整備されているので、今後はやる必要のない仕事や責任が出てきます。クラウドでは、別のスキルセットが求められています。何を注文すればいいのか、どれだけの容量が必要かを見極めた後は、もうその計画を立てる必要もなく、管理をする必要もなくなります。現在、私たちはインフラの管理を外部に委託し、オンプレミスならではの業務を抱えていますが、クラウドに移行すると全く別の業務に替わります。

もう一つの利点は、

懸念点であると同時にメリットでもある継続的な更新です。5年〜10年に一度のペースで大規模なプロジェクトを実行し、その間の期間は通常通りの業務を行うことに慣れていますので、常にプロジェクトモードでいなければならないことは困難でもあります。また、私たちのビジネスそのものをどう変える可能性があるのか、新しく追加される機能が業務にどのようなメリットをもたらしてくれるのか常に学ぶ必要があります。

セキュリティに関する考慮事項はありましたか？

このトピックに関して、インフォアと良好な会話をしました。もちろん、すべてを予測できるわけではありません。しかし、オンプレミスで運用する場合も同じです。今日の企業にとってセキュリティ投資はかなり大きいので、SaaSモデルを求めるのはかなり利益があり、それが確実に機能するようにするのはあなた次第です。

プロジェクトにどのようなリソースを投入しますか？

インフォアのコンサルタント、パートナー、社内能力を組み合わせて行います。私たちの組織には、プロセスやビジネス、M3をよく知っている熟練者がいます。しかし、クラウド移行の知識の習得には時間がかかります。例えば機械部門では、M3 5.2のサービスモジュールがクラウドに完全に書き換えられるため、インフォアのコンサルタントに新バージョンでどのように設定されているかを教えてもらう必要があります。また、すでにクラウド移行を完了させた他の企業にも触発され、そうした企業からも学びたいと考えています。

Lantmännenの変革の次の段階は何ですか？

私たちの組織には、ビジネスを刺激し、新しいアイデアや改善の機会を見つけるために創造的なマインドが必要です。これは、将来的に求められるスキルであり、私たち自身が取り入れる必要があります。技術はRPAや人工知能によって置き換えることができますが、チームの想像力と創造性は私たちが獲得する必要があるものです。私たちは、日常のIT関連のトラブル対応担当者ではなく、革新の推進者であるべきです。

IT部門はコストセンターから、より価値を提供する存在へ移行していると言えるでしょうか？

はい、その通りです。将来的には、IT部門ではなく、ビジネス開発部門にしたいと考えています。その考えが、私の意識の中にあります。5〜6年後には「IT」という言葉が古くなり、使われなくなる日が来るのではないかと考えています。

ERPをクラウドにアップグレードしようとしている他の企業には、どのようなアドバイスがありますか？

たとえあなたが直接的にクラウド移行に関与しないとしても、クラウドがどのように機能するかを理解する必要があります。SaaS型のソリューションは、その機能をユーザー側がより深く理解することが求められるからです。また、クラウド型のサービスは共通化されたサービスであることを理解しなければなりません。つまり、私たちがソフトウェアの機能や基準に合わせていく必要があるのです。社内での働き方を見直すことになるかもしれません。以前はビジネスサイドがシステム側の要件を決めていましたが、今後は、クラウドシステムがどのように機能するのかを業務部門に伝えていく必要があります。もちろん、ビジネスには要件があり、要求事項をシステム側へ伝えるべきですが、クラウドに移行する際にはその考え方を少し変えて、できるだけ標準に近づける必要があります。そうしないと、後に非常に高価で面倒なことになるからです。Infor M3は様々な設定変更が可能なERPソリューションであるため、標準を維持しながら多くの作業を行うことができます。

もうひとつのアドバイスは、ユーザーインターフェースにもっと重点を置き、ホームページをプロジェクトの重要なキーとして扱うことです。来るべき新しい世代は、「MMS 001」(アイテムを入力するためのプログラム) を使わなくなりました。彼らはGoogleで検索します。簡単な方法で情報を見つけたいと思っているのです。検索して探すのではなく、何をすべきかを教えてくれるような、より応答のうまいシステムを求めています。日付や価格やその他の情報が不足している場合、システムがそれを把握し、エラーメッセージを表示するのではなく、すぐにその情報を提示してくれるべきです。

つまり、最高のユーザーインターフェースはユーザーインターフェース自体が存在しない状態ということですか？

賢明な次世代は「なぜシステムにすでに情報があるはずなのに、自分で検索しなければならないのか？」と疑問に思うことでしょう。私たちは長年PCを使い、「タイピングして、Enterキーを押して、右クリックでメニューを呼び出す」という動作に非常に慣れています。PCを使う前提で、そうした動作が行えることは、私たちにとっては当たり前のことですが、次世代はスマートフォンやタッチスクリーンでのスワイプ動作などのほうが慣れているのです。

クラウドへの移行にはどのようなビジネス価値が期待されますか？

まだそこには到達してないので言いにくいです。Lantmännen Ceraliaの同僚は、CloudSuite®のより多くのコンポーネントを検討しています。大きな視点で見れば、より多くの利点があり、ツールボックスのツールも増え、システム同士が確実に連携できるような企業間の統合が可能になるでしょう。システム間の連携はクラウドのサービス内で対応できることなので、Lantmännen社として、そうした企業間連携まで対応していく予定はありません。これこそがクラウドの利点であり価値だと考えています。様々なシステムを組み合わせ、自社で全システムを構築するシナリオもありましたが、私たちとしては1つのソリューションを採用することが費用対効果も高く有益な方法だと判断しています。

他に付け加えたいことはありますか？

クラウドに移行するかしないかに頭を悩ませる必要はないと思います。 これが世の中の流れであり、社会の流れである以上、クラウドはもはや話題にさえなるべきではないのです。むしろ、どのソリューションを使うか、またその組み合わせを考えるべきです。クラウドはインフォアのようなこれまでオンプレミスのソリューションを提供してきたプロバイダー視点では重要なテクノロジーとして捉えられていると思いますが、しかし、顧客である私にとっては、モノがつながり、使えるアプリケーションの数が増え、統合の可能性があるというメリットの多いテクノロジーだと捉えています。

今すぐ見る

インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。
17,000人の社員が、175か国以上で 65,000以上のお客様のビジネスを支援しています。
詳しくは、www.infor.com/ja-jp/ をご確認ください。

Copyright© 2023 Infor. All rights reserved. 本文に記載の文字標章および 図形標章は、インフォアおよび／またはその関連会社ならびに子会社の商標および／または登録商標です。
本文に記載のすべての他の商標は各所有者の所有物です。 www.infor.com.

東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル16階

INF-2584365-ja-JP-1023-1